【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成18年7月13日(2006.7.13)

【公表番号】特表2006-511450(P2006-511450A)
【公表日】平成18年4月6日(2006.4.6)
【年通号数】公開・登録公報2006-014
【出願番号】特願2004-515715(P2004-515715)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　35/76　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　35/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　35/76
Ａ６１Ｐ　35/00

【手続補正書】
【提出日】平成18年5月10日(2006.5.10)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
少なくとも1回のサイクルが、ウイルスの脱感作投与量を連続して2回以上投与し、その後、ウイルスの漸増投与量を1回以上投与することを含み、ここで：
ウイルスがマイナス鎖RNAウイルスであり；
2回目およびその後の脱感作投与量中のウイルスの量が、先行する脱感作投与量中のウイルスの量以上であり；かつ
1回以上の漸増投与量のそれぞれにおけるウイルスの量が、脱感作投与量のそれぞれにおけるウイルスの量より多い、
1回以上のサイクルで対象に治療用ウイルスを投与する方法。
【請求項２】
ウイルスが、複製能力のある腫瘍細胞崩壊性ウイルスである請求項1に記載の方法。
【請求項３】
腫瘍細胞崩壊性ウイルスが、パラミクソウイルスである請求項2に記載の方法。
【請求項４】
パラミクソウイルスが、ニューカッスル病ウイルスである請求項3に記載の方法。
【請求項５】
ウイルスが、ニューカッスル病ウイルスの亜病原性株である請求項4に記載の方法。
【請求項６】
1回目の脱感作投与量が、患者の表面積のm^2当たり少なくとも1×10^8 PFUである、請求項5に記載の方法。
【請求項７】
2回目の脱感作投与量が、患者の表面積のm^2当たり少なくとも3×10^9 PFUである、請求項5に記載の方法。
【請求項８】
漸増投与量が、それぞれ、患者の表面積のm^2当たり少なくとも3×10^9 PFUである、請求項5に記載の方法。
【請求項９】

投与される脱感作投与量の数が2である請求項5に記載の方法。
【請求項１０】
投与される脱感作投与量の数が少なくとも3である請求項5に記載の方法。
【請求項１１】
3回目の脱感作投与量が、患者の表面積のm^2当たり少なくとも3×10^9 PFUである、請求項10に記載の方法。
【請求項１２】
1回目の脱感作投与量が：
24時間までの投与期間を通して投与され；かつ
投与期間内のいずれの10分間のサンプリング期間において患者の表面積のm^2当たり3.0×10^9 PFUまでの速度で投与される、
請求項5に記載の方法。
【請求項１３】
2回目の脱感作投与量、その後の脱感作投与量および漸増投与量から選択される1つ以上の投与量が：
24時間未満の投与期間を通して投与され；かつ
投与期間内のいずれの10分間のサンプリング期間において患者の表面積のm^2当たり5.0×10^{10} PFUまでの速度で投与される、
請求項5に記載の方法。
【請求項１４】
腫瘍細胞崩壊性ウイルスがラブドウイルスである、請求項2に記載の方法。
【請求項１５】
ラブドウイルスが水疱性口内炎ウイルスである、請求項14に記載の方法。
【請求項１６】
ウイルスが、対象の静脈内に投与される請求項1に記載の方法。
【請求項１７】
ウイルスがマイナス鎖RNAウイルスであり；
投与量が、ウイルスの1回以上の投与量を含むサイクルの1回目の投与量であり；
投与量が、24時間までの投与期間を通して投与され；かつ
投与量が、投与期間内のいずれの10分間のサンプリング期間において患者の表面積のm^2当たり3.0×10^9 PFUまでの速度で投与される、
対象に治療用ウイルスの投与量を投与する方法。
【請求項１８】
ウイルスが、複製能力のある腫瘍細胞崩壊性ウイルスである請求項17に記載の方法。
【請求項１９】
腫瘍細胞崩壊性ウイルスが、パラミクソウイルスである請求項18に記載の方法。
【請求項２０】
パラミクソウイルスが、ニューカッスル病ウイルスである請求項19に記載の方法。
【請求項２１】
ウイルスが、ニューカッスル病ウイルスの亜病原性株である請求項20に記載の方法。
【請求項２２】
1回目の投与量が、患者の表面積のm^2当たり少なくとも1×10^8 PFUである、請求項21に記載の方法。
【請求項２３】
ウイルスが、対象の静脈内に投与される請求項17に記載の方法。
【請求項２４】
投与期間が少なくとも1時間である、請求項17に記載の方法。
【請求項２５】
ウイルスがマイナス鎖RNAウイルスであり；
投与量が、ウイルスの2回以上の投与量を含むサイクルの2回目またはその後の投与量であ

り；
投与量が、24時間までの投与期間を通して投与され；かつ
投与量が、投与期間内のいずれの10分間のサンプリング期間において患者の表面積のm^2当たり5.0×10^{10} PFUまでの速度で投与される、
対象に治療用ウイルスの投与量を投与する方法。
【請求項２６】
ウイルスが、複製能力のある腫瘍細胞崩壊性ウイルスである請求項25に記載の方法。
【請求項２７】
腫瘍細胞崩壊性ウイルスが、パラミクソウイルスである請求項26に記載の方法。
【請求項２８】
パラミクソウイルスが、ニューカッスル病ウイルスである請求項27に記載の方法。
【請求項２９】
ウイルスが、ニューカッスル病ウイルスの亜病原性株である請求項28に記載の方法。
【請求項３０】
2回目またはその後の投与量が、患者の表面積のm^2当たり少なくとも3×10^9 PFUである、請求項29に記載の方法。
【請求項３１】
ウイルスが、対象の静脈内に投与される請求項25に記載の方法。
【請求項３２】
投与期間が少なくとも1時間である、請求項25に記載の方法。